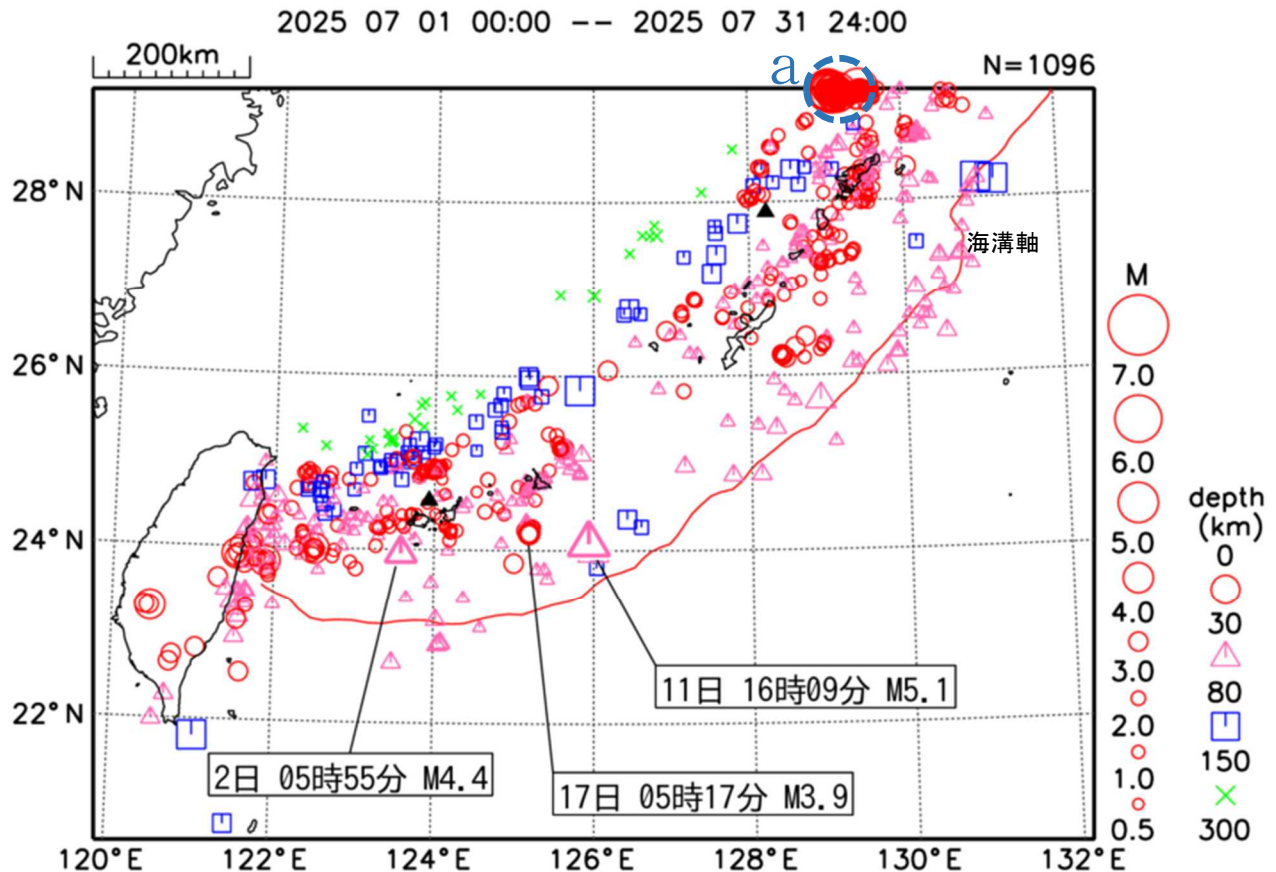


沖縄地方の地震活動

令和 7 年（2025 年） 7 月

沖縄気象台

図 1 沖縄県及びその周辺の震央分布図



図中の記号 M：マグニチュード depth：震源の深さ
N：地震の回数（マグニチュード0.5以上の回数です）
▲：活火山

沖縄県内で震度1以上を観測した場合は、吹き出しで示しています。

〔概況〕

今期間に沖縄県内で震度1以上を観測した地震は3回（6月は4回）でした。

7月の主な活動は次のとおりです。

トカラ列島近海（図中の領域a）では、6月21日から活発な地震活動が継続していましたが、7月20日頃から低下してきており、規模の大きな地震の回数も減少しています。

30日08時24分（日本時間）ロシア、カムチャツカ半島東方沖の地震（Mw8.8、深さ35km：Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）により、岩手県の久慈港で1.4mなど、北海道から沖縄県の太平洋沿岸を中心に広い範囲で津波を観測しました。この地震に対し、沖縄本島地方、大東島地方、宮古島・八重山地方に津波注意報を発表し、沖縄県内では、宮古島平良で0.2m、沖縄市中城湾港、那覇、石垣島石垣港で0.1m、南城市安座真（高さ不明瞭）及び南大東漁港（高さ不明瞭）で津波を観測しました（いずれも速報値）。

図 2 - 1 沖縄本島付近の震央分布図及び断面図

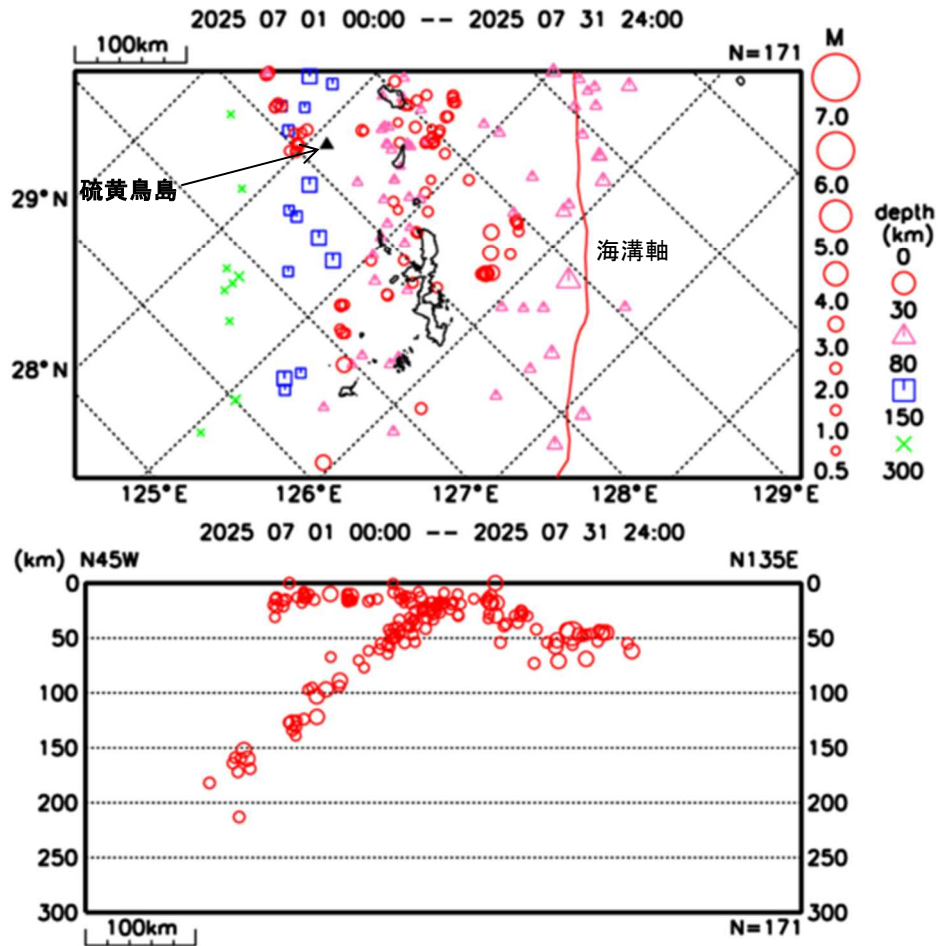


図 2 - 2 宮古・八重山諸島付近の震央分布図及び断面図

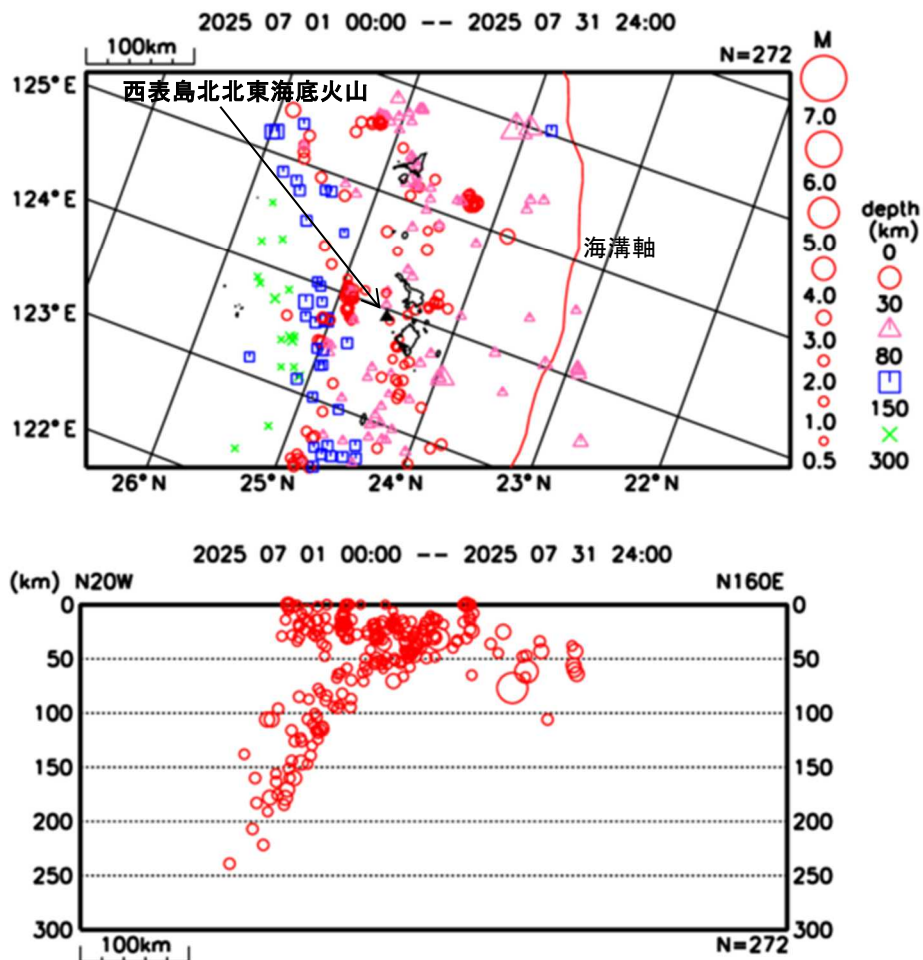
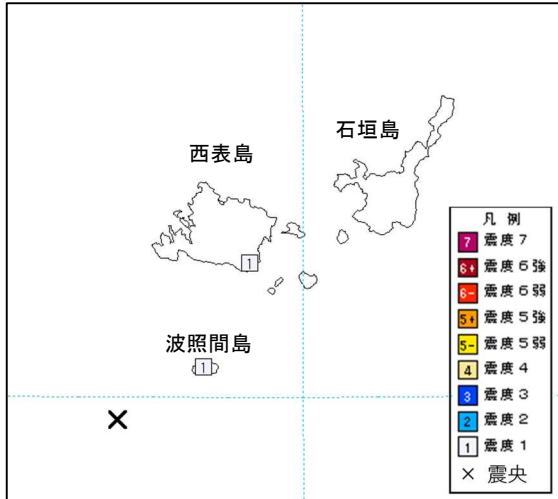
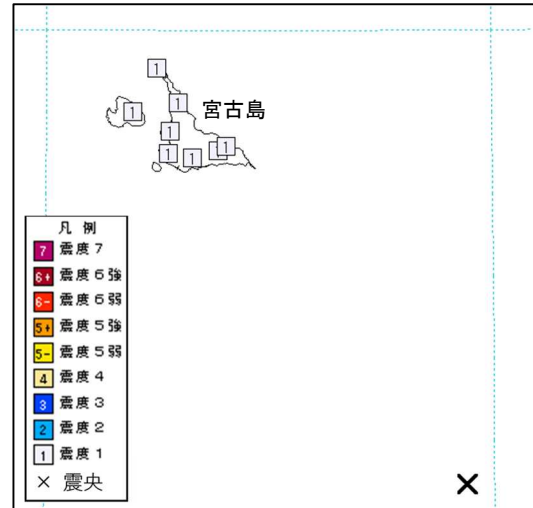


図3 震度分布図



7月2日05時55分 西表島付近 深さ32km M4.4



7月11日16時09分 宮古島近海 深さ77km M5.1



7月17日05時17分 宮古島近海 深さ24km M3.9

表 1 沖縄県内で震度 1 以上を観測した地震の表（期間 7 月 1 日～ 7 月 31 日）

震源時 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	規模
2025年07月02日05時55分 沖縄県 震度 1 : 竹富町大原, 竹富町波照間	西表島付近	23° 57.2' N	123° 35.2' E	32km	M4.4
2025年07月11日16時09分 沖縄県 震度 1 : 宮古島市平良下里, 宮古島市城辺福北, 宮古島市平良池間, 宮古島市上野新里 宮古島市伊良部前里添, 宮古島市平良狩俣*, 宮古島市城辺福西*, 宮古島市下地*	宮古島近海	24° 04.7' N	125° 56.4' E	77km	M5.1
2025年07月17日05時17分 沖縄県 震度 1 : 宮古島市城辺福北, 宮古島市下地*	宮古島近海	24° 11.6' N	125° 11.5' E	24km	M3.9

* の付いた地点は気象庁以外の震度観測点です。

※沖縄地方以外に震度が観測された場合は、その震度も記載します。

※ 資料中のデータについて

この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※ 概況中の震源の深さについて

震源の深さは、精度がやや劣るものは表記しないことがあります。

※ データについては精査により、後日修正することがあります。

詳細は沖縄気象台ホームページで閲覧できます。

URL <https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/jishin/quake.html>

震度 1 以上を観測した地震の震度分布図は、気象庁ホームページ「震度データベース検索」でご覧になれます。

URL <https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/index.html>

地震・津波・火山に関する防災一口メモ

URL <https://www.data.jma.go.jp/okinawa/know/memo/sougou.html>

本件に関する問い合わせ先：沖縄気象台地震火山課 098-917-7927

南海トラフ地震臨時情報

～ 被害を軽減するために 日頃から地震への備えを～

令和6年8月8日、宮崎県沖の日向灘の地震を受け令和元年の運用開始後初めて「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されました。幸いにも次の大きな地震の発生には至りませんでした。

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界で概ね100年から150年間隔で繰り返し発生してきた規模の大きな地震で、前回の昭和東南海地震（1944年）及び昭和南海地震（1946年）が起きてから約80年が経過し、次の南海トラフ地震発生の**切迫性が高まっています**。

2025年1月に政府の地震調査委員会は、30年以内の発生確率を「70%～80%」から「80%程度」に引き上げました。

内閣府の被害想定によると、沖縄県内では大きな揺れによる被害は想定されていませんが、津波による被害が見込まれています。「南海トラフ地震に限らず、大地震がいつ、どこで起こるかは分かりません。**日頃からの地震への備えと適切な避難行動**が大切です。情報を正しく理解し、適切な避難行動につなげましょう。

■ 南海トラフ地震臨時情報（下図）

「南海トラフ地震臨時情報」は、情報名の後にキーワード※を付記して発表する情報です。なお、気象警報・注意報とは異なり、「解除」はありません。

※キーワード：「調査中」「巨大地震警戒」「巨大地震注意」「調査終了」があります。

■ 発表後取るべき行動（下図）

政府や自治体から、キーワードに応じた防災対応が呼びかけられますので、呼びかけの内容に応じた防災対応をとってください。

南海トラフ地震臨時情報		発表条件
キーワード	調査中	■ 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
	巨大地震警戒	■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において M8.0 以上の地震が発生したと評価した場合
	巨大地震注意	■ 南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界において M7.0 以上、M8.0 未満の地震が発生したと評価した場合 ■ 想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側 50km 程度までの範囲で M7.0 以上の地震が発生したと評価した場合 ■ ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合
	調査終了	■ 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合



● 「南海トラフ地震臨時情報」が発表されたときの防災対応（気象庁ホームページ）

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/iishin/nteq/bosai.html>

■ 南海トラフ地震に関する情報の留意事項

この取組は、大規模地震発生の切迫性とその被害の甚大性を踏まえ、不確実ではあるものの、大規模地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まっていると評価された場合には、状況に応じて、この情報を活用して、**大規模地震に備えた行動を取ることで被害をできるだけ減らしていくという考え方に基づくものです**。「南海トラフ地震臨時情報」の発表がないまま、突発的に南海トラフ地震が発生することもあります。そのため、**「日頃からの地震への備え」を実施することが大切です**。

「南海トラフ地震臨時情報」が発表されたときの 防災対応

「南海トラフ地震臨時情報」の発表がないまま、突発的に地震が発生した場合を想定し、**日頃からの地震への備え（事前防災対策）を徹底することが大前提です。**

その上で、「南海トラフ地震臨時情報」発表時には、政府や自治体などから呼びかけられる、南海トラフ地震臨時情報のキーワード（巨大地震警戒、巨大地震注意または調査終了など）に応じた防災対応をとることが大切です。

なお、既に発生した地震に伴う津波警報等が発表されている地域では、津波への防災行動を最優先とし、避難情報に留意するとともに警報が解除されるまで安全な場所にとどまり続けてください。

～ 被害を軽減するために 日頃から地震への備えを～

日頃からの地震への備え

家具の固定



非常用 持ち出し袋の準備



水や食料の備蓄



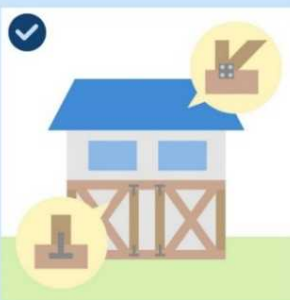
避難場所や 避難経路の確認



感震ブレーカーの 設置



建物の耐震化



自らの命、大切な人の命を守るために
今から準備しておきましょう

監修：内閣府(防災担当)、気象庁

Yahoo! ニュース
オリジナル

○ 危険な場所を確認しよう！

海から離れていても、川に沿って津波が襲ってくることもあります。津波に襲われるおそれのある場所をハザードマップや周囲の地形・標識から確認しておきましょう。

○ 避難場所を確認しよう！

津波避難場所や避難ビルがどこにあるか、また避難経路などを確認しておきましょう。

避難場所は1か所だけでなく、さらに高いところの避難場所も調べておきましょう。

○ 避難経路を歩く訓練をやってみよう！

実際に避難経路を歩いて危険な場所がないか、安全に避難できるか確認してみましょう。

危険な場所がある場合は、避難経路の見直しなどの検討が必要です。



地震に関する情報は
沖縄気象台ホームページまで

<https://www.data.jma.go.jp/okinawa/index.html>

沖縄気象台

検索

